



日本共産党

北区議会議員

のの山けん 区政レポート

http://kyoukita.jp/nonoyama/ E-mail nonoyama@kitanet.ne.jp

No.289 2014.1.8

日本共産党北区議員団

〒114-8508 王子本町1-15-22

ご相談は
お気軽に **090-2156-3510**

2014年 安倍政権の暴走をストップさせ くらし・民主主義守る政治を

都知事
選挙

首都東京から 政治の流れ変えよう

2014年が始まりました。
昨年、安倍自公政権が、年間8兆円もの国民負担増となる消費税増税を決め、秘密保護法を国会で強行するなど暴走を加速させました。
さらに、原発再稼働や沖縄の米軍新基地建設、憲法を変え「戦争する国づくり」への道を突き進



新年のあいさつをする、のの山けん区議（左）と、赤羽駅東口

もうとじています。首相の靖国神社参拝は、アジア諸国ばかりか、米国の矛盾も広げています。今年、こうした安倍政権の暴走をストップさせ、くらしと民主主義を守る政治の実現に全力をあげる決意です。
猪瀬前知事の辞任による東京都知事選挙は、2月9日が投票日となります。日本共産党は、徳洲会からの「裏献金」疑惑を徹底追及するとともに、「世界一くらしやすい東京へ」の公約を掲げて出馬を決意した宇都宮けんじさんを推薦して、首都東京から政治の流れを変えるたたかいに挑みます。
(のの山けん)

国保料・後期高齢保険料 値上げにノーを



保険料に関する区長への申し入れ = 7日、北区役所

日本共産党 北区議員団 花川区長に申し入れ

日本共産党北区議員団は7日、花川区長に対して、来年度の国民健康保険料、後期高齢者医療保険料の値上げに反対するよう申し入れました。今でさえ「払いたくても払えない」水準であり、これ以上の値上げは区民生活に大打撃です。

要請を受けて国保年金課長は、後期高齢者医療保険料について「すでに23区長会としても東京都広域連合に負担増の幅を抑えるよう要請している」などとのべました。

2014年 北区賀詞交歓会での花川区長あいさつ 「地域のきずな」強調するが



北区賀詞交歓会での合唱 = 6日、北とぴあ・さくらホール

新年の仕事始めとなった6日、北とぴあで北区賀詞交歓会が開かれ、「北区のうた」「カチューシャの唄」の合唱に続き、花川区長があいさつに立ちました。(のの山けん)

富士山や「和食」の文化遺産登録、東京オリンピック招致などをもって「明るい話題が多い1年」と評した花川区長。一方で、区民生活に大きくかわる消費税増税や秘密保護法の強行、靖国参拜、

原発再稼働への動きなど、安倍政権の暴走にはまったく言及しませんでした。

事業・公共施設の「大胆な見直し」

区民の福祉やサービスについては昨年同様、「大胆な見直し」を強調。

事業の縮減・廃止、公共施設の廃止や複合化をさらにすすめると表明しました。その根拠とされているのが「財政危機」論ですが、400億円を

超える基金を積み立てながら「財政が厳しい」と区民サービス削減を強行する姿勢は、容認できるものではありません。

住民意見を尊重する姿勢こそ

さらに区長は今年「地域のきずなづくり」を最重要課題に位置づけるとのべましたが、この間、地域で大きな問題になっっているのは、住環境を壊す特定整備路線や高齢者の居場所を奪うふれあい館の廃止など、住民の意向を無視した計画の押しつけです。

住民の意見を最優先に尊重する姿勢こそ、地域のきずなづくりの根本をなすものだと思います。

道路計画問題 北区議員団ニュース 号外を発行

区内4カ所ですすめられている東京都の道路計画(特定整備路線)を特集した日本共産党北区議員団ニュース1月号号外が発行されました。

私のホームページからご覧いただけます。

のの山けん 検索

道理のない道路計画は見直しを

特定整備路線とは?
東京都が進める「本都圏不燃化10年プロジェクト」で、防災性向上を図るために2020年度までに整備する予定の都市計画道路。北区では、補助3号線、補助81号線、補助85号線(赤羽・志保)の3路線4区画が計画されている。

延焼遮断効果は本当にあるのか
東京都は道路をつくることによって、災害時、燃え広がりを抑えられるとしています。しかし、都が事前におこなった延焼シミュレーションでは、効果が認められない箇所があることも判明。データを公開し、その効果についてあらためて説明すべきです。

住民無視の計画押しつけやめよ
東京都による各地の住民説明会では、多くの参加者が計画に疑問や反対の声をあげた(企画参照)。ところが都は「すでに決まった計画」と、説明開始の考えをくずしていません。まちの顔面を大きく変えてしまう道路計画を、住民の意向を無視して進めることは許されません。

眠っていた計画をよみがえらせる
今回、特定整備路線に指定された道路の都市計画は、もともと今から68年前の1946年(昭和21年)につくられたものです。これまで実現せず眠っていた計画を、まさによみがえらせようという計画に他なりません。東京以外の府県では、長期にわたって実現に至らない道路計画を廃止・中止しています。突如に合わない道路計画は、今からでもキッパリ見直すことが必要です。

まちづくりどころか「まちこわし」
新たな道路を建設したり現道を拡幅する計画で、多くの居住者が立ち退きを迫られます。その中には古いお寺やお店街も含まれます。昨年11月24日放映の『噂の!東京マガジン』(TBS)は、今回の計画を「安心で住みよい街づくりになるのか? 延焼遮断の道路計画を断念!」と報じました。「これでは、まちづくりどころか「まちこわし」だ」との批判を、都は真摯に受けとめるべきです。

測量して初めて事業化
今回の計画は測量済、用地測量という2回の測量を実施した後に都庁を受け、初めて「事業化」となります。測量には関係住民の立ち合いが不可欠ですが、計画に納得できずに立ち合いに協力しなかったらといって測量が凍らせるなど、不利益になるようなことはありませぬ。

緊急学習 交流集会 問題だらけの特定整備路線 道理のない計画は許さない
1月22日(水) 午後7時開会 北とぴあ7階第2研修室 主催:日本共産党北区議員団